

## 平成25年度

# 岐阜県高病原性鳥インフルエンザ防疫演習

平成25年度岐阜県高病原性鳥インフルエンザ防疫演習（主催岐阜県、共催一般社団法人岐阜県畜産協会）が、平成25年10月9日（水）、岐阜市藪田南のヒマラヤアリーナで開催され、地元市町村や関係団体に加えて県内、近隣県から総勢219名の参加がありました。高病原性鳥インフルエンザ防疫演習の発生を想定した初動防疫措置について演習を行った後、愛知県西部家畜保健衛生所の兼子主任専門員から貴重な講演をいただき、さらには農場における日常から必要な防疫対応について実働演習を行いました。

平成23年の全国各地での発生から、丸2年、国内の家きん飼養農場での高病原性鳥インフルエンザの発生はありませんが、アジア近隣諸国をはじめ世界各地では発生が相次いでおり、国内での発生は予断を許さない状況です。今後の発生がないことを願いながらも、いざという時に備え緊張感を高めるべく、演習が取り行われました。

### 演習（午前部）

「初動防疫における情報伝達訓練と防疫服着脱訓練」

県職員をはじめ、農場での防疫作業従事者を対象として、異常鶏の発生の連絡を受けてから、関係者において的確な情報伝達ができるか、また、発生農場への防疫作業に入る際の防護服の着脱が的確に行うことができるかを訓練しました。



情報伝達訓練では、農場から異常鶏の通報を受け、農場への立入を行った家畜保健衛生所が、的確な情報を伝達されるか、訓練しました。



情報は、家畜保健衛生所から農林事務所（現地対策本部）、県庁へ伝達されていきます。

農場での防疫作業に従事する人員は、速やかに集合施設に参集されます。参集されると、受付、健康チェックの後、作業準備に取り掛かります。



今回は、関係機関の10名に防護服の着脱を体験していただきました。

防護服の着脱は、ウイルスのまん延防止、自らへのウイルス感染防止のため、確実な着脱が求められます。



## 講演

「愛知県における鳥インフルエンザの発生とその後の対応」として、愛知県西部家畜保健衛生所から兼子松義主任専門員をお招きし、発生事例を詳細にお話いただきました。

会場内からも関連な質問がありました。



## 実動演習（午後の部）

主に養鶏農家及び農場に出入りする関係者を対象として実施しました。農場での飼養衛生管理基準の遵守は、発生防止の重要な対策です。

今回は、農場出入り車輛の消毒、農場へ立ち入る人への対策、の2点について、確認しました。



農場に出入りする車輛の消毒用に、今回は廉価で、扱いやすい電動ポンプ式の消毒器を、実証展示を兼ね実演しました。

今回使用する消毒器は、ホームセンターなどで2～3万円程度で販売している家庭用100V電源で動かすことができる園芸用の消毒器です。



また、農場の入口には、農場へ立ち入る人等のために、入場記録簿、手指消毒器、長靴または靴カバー、白衣、踏み込み消毒槽及びブラシ（必ず鶏舎毎でも区分してください。）等の設置が必要です。